

古河歴史見聞録

修理する力 文化財の保存と活用

国宝参上。

鷹見泉石の資料群は、明治39（1906）年に開かれた東京帝室博物館（東京国立博物館の特別展覧会「嘉永以前西洋輸入品及参考品」の会場で初めて一般に公開されました。これらは、東京帝室博物館における発見後、各地の博物館等で公開活用されるようになります。もちろん「鷹見泉石像」もその中の一点に含まれていました。

平成2年11月、古河歴史博物館が開館すると、泉石像を除く鷹見家の歴史資料は当館で保存・活用されるようになります。そして、平成16年6月に「鷹見泉石関係資料」として、3157点が国の重要文化財に指定されました。

一方、「鷹見泉石像」は関東大震災後に復興された本館を彩る文化財として昭和13年5月に、東京国立博物館の所蔵品となります。このことから、当時この画像がいかに高い評価を得ていたかが分かるでしょう。そして、今月この

国宝が開館30周年を迎えた当館に初めて里帰りします。

素材となっていて、絵図はこの特性を生かしながら、150年ごとの修理で糊を補うことで、現在まで伝えられてきました。

さて、素材や形状にもありますが、文化財は150年程度で経年劣化が目立ち始めるとされています。当館が所蔵する泉石の資料群にも、修理を要するものが多く含まれていました。特に、700点を超える絵図・地図は、本紙の継ぎ手が外れており、あたかもパズルのピースのようで、そのほとんどは、公開できる状態ではありませんでした。

蛇足ながら、日本の文化財は、可逆性のある素材で構成されるため、環境さえ整えられれば未来永劫にわたり、存在し続けることが可能といわれます。一つ例をあげると、古来、絵図の料紙を継ぐための糊は、小麦デンプン糊や海藻由来の布海苔などが使われてきました。この糊は、作品の描かれた本紙に悪影響を及ぼすことなく、徐々に粘力が失われる性質を持つため、文化財を容易に解体できる

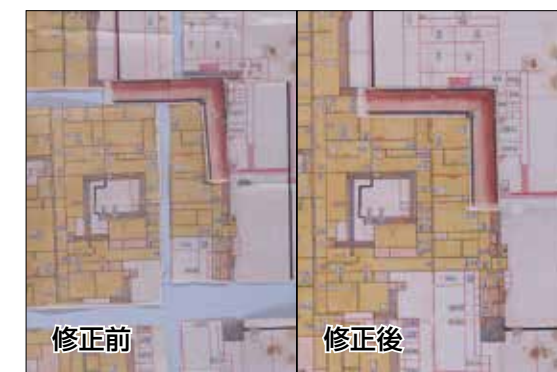
鷹見泉石像 初めての修理

詳細は省きますが、鷹見泉石像は、昭和26年に施行される文化財保護法により「国宝」に指定されました。これにより、名実ともに紛れもなく日本を代表する文化財として地位を確立しました。

そこで、「鷹見泉石像」は海外からの支援を得て、平成25年10月から27年9月にかけて半田九清堂による初の文化財修理が行われました。

国宝が里帰りするこの機会に、文化財を修理するという新たな視点からも本展をご覧ください。

古河歴史博物館学芸員 永用俊彦



▲古河城二ノ丸を描く図の修理前後

図書館の本棚から

【児童書】

きみの声がききたくて
オーウェン・コルファー 作
心に深い傷をおい、ほえることができなかった子犬と、父親とはなれ、声をだすことをやめた少年。時間をかけて親友になったふたりは、「君の声がききたい」と同じことをねがい…。

出版社…文研出版



【児童/絵本】

どすこーい
山岡ひかる 作
つるつとすべったぺんぎんさんも、お水が足りなくて、ふらふらしたおはなさんも、ごろごろ転がるくまさんも、どすこーいのかげごえで、元気にぴん！読むと元気が出てくる絵本。

出版社…アリス館



古河図書館

【一般書/小説】

ワカタケル
池澤夏樹 著
形のないものが形あるものになった、実在した天皇とされる21代雄略の御代。日本人の心性はこの頃始まった。言葉の魂を揺さぶり、古代からつながる「日本語」という文体の根幹に接近する。

出版社…日経BP日本経済新聞出版本部

【一般書/随筆】

ほんとうのリーダーの みつけかた
梨木香歩 著
みんなと同じでなくてはいいけないという圧力が強くなっているなかで、いちばん耳を傾けるべき存在とは。困難な時代を生き延びるために、今考えたいことをまとめる。

出版社…岩波書店

1968 昭和43年

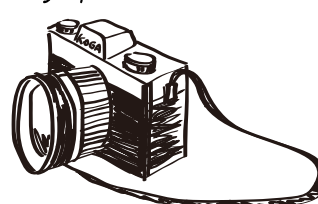


提供：三和資料館

当時の県道境尾崎線は、まだ舗装されていませんでした。中央に見えるガソリンスタンドは、農協の八俣支店が経営していたもので、県内で4番目にできた農協スタンドだったそうです。

【募集】このコーナーに掲載する昔の総和地区の写真を探しています。お持ちの人は☎シティプロモーション課(Tel.92-3111)までご連絡ください。

古河 今昔物語 Time Travel Photograph



2020 令和2年

